

言語聴覚士（ST）のリハビリテーションで出来ること

言語聴覚士は、話す、聞く、表現する、食べる…のスペシャリストです。ことばによるコミュニケーションや嚥下に問題がある方々が自分らしい生活を送れるよう支援するのが言語聴覚士の仕事です。

何らかの損傷（事故・脳血管障害）により脳の言語中枢が傷害されると、話す・聞く・読む・書くなどの言語能力が障害されコミュニケーションをとることが困難となる場合があります。また、記憶や行動、情緒に問題が生じる場合もあります。そのほか呂律不良で相手になかなか伝わらない構音障害、老化や疾病に伴い、飲食物が噛み辛い・飲み込み辛いといった嚥下障害が見られる場合もあります。

言語聴覚士はこれらの問題に対して検査、評価、訓練を行います。適切な言語訓練、口腔機能訓練・口腔ケア・嚥下体操により改善が見られることも多いので是非、ご相談下さい。認知症や高次脳機能障害へのアプローチなども日常生活に沿った内容で実施しています。

訪問リハビリテーション内容

摂食・嚥下障害



例) ご飯を食べる際、
水を飲む際などによくむせる…

まずは、ゼリーや水分を使用して飲み込みの評価を行います。リスクも伴うため病院と連携しVF検査などを行い、飲み込みに必要な機能を維持・向上出来るように訓練します。また、安全に食事が行えるように食形態の調整や姿勢調節、食事介助方法のアドバイスも行います。

言語障害（失語症、構音障害）



例) 言葉がうまく出てこない、
呂律がまわらず喋りにくい

失語症で言葉がうまく出てこない、理解力の低下などに対して言葉の練習やコミュニケーションの練習、指導などを行います。

構音障害などの話しにくさに対しては、言葉話す際に必要な機能を維持・向上出来るように訓練していきます。それと同時に話し方の工夫などもアドバイスします。

高次脳機能障害（注意障害、記憶障害など）



- 例) ・ おぼえられない＝記憶障害
・ 物事に集中できない＝注意障害
・ 道具が上手く使えない＝失行
・ いきあたりばったりの行動をする
＝遂行機能障害

文字や図形、絵カードなどを使用し、高次脳機能障害を改善させる訓練を行います。また生活場面に則した訓練やアドバイスも行います。

認知症



例) 忘れっぽい 興味や意欲の低下 感情の起伏が激しい

心理面や記憶面などを総合的に評価します。

脳を活性化させるリハビリや生活面でのアドバイスを行います。

☆認知症のリハビリの一例☆

- ・ 古い記憶を引き出すことで脳を活性化させる「回想法」
- ・ 計算を解いたり文章を音読したりする「学習療法」

快刺激により成功体験を増やすことが重要だと考えられています！

☆リハビリテーション栄養にも積極的に取り組んでおります☆

徐々に機能やADLが低下している利用者さんはいませんか？ その原因は、活動量や栄養のバランスが崩れたことによる「サルコペニア」かもしれません。高齢者の低栄養への対処不足は大変危険です。

当事業所は言語聴覚士・理学療法士・作業療法士、さらに看護師が連携して栄養状態の改善に取り組んでいます！

毎日の生活が楽しく、ご家族との時間が充実できるようにこれからもお手伝いをさせていただきます。

A R S 訪問看護リハビリステーション

ST 仲村敦子 ST 門脇友美

電話 0465-39-3700 F A X 0465-39-3710